

# ヨーロッパ酪農レポート

## ～サイレージ①～

### はじめに

過去2回のレポートでは、粗飼料主体の飼養体系でありながら高泌乳を実現しているデンマークとオランダの酪農現場の紹介をいたしました。両国で共通していたのは、非常に高品質なサイレージが調製されているということであり、これが粗飼料主体の飼養体系を支えていることは言うまでもありません。また、日本では考えられないようなサイレージもありました。そこで、最終回は、私が訪問した各国で目にしたサイレージを紹介いたします。

### (1)Elmegaard牧場のサイレージ調製

デンマークのユトランド半島中部に位置する飼養頭数300頭の牧場を訪問した際、コントラクターによるグラスサイレージ（ペレニアルライグラスとクローバの混播、4番草）の調製作業を見ることができました（写真1）。



写真1 バンカーサイロの調製風景

#### ①材料草の計量（写真2）

デンマークの牧場にはトラックスケールが設置されていることが多く、サイロに詰め込んだ材料草の重量を記録し、サイレージ給与可能量や生産コストの把握が行われています。



写真2 トラックスケールによる材料草の計量

#### ②トラクターによる踏圧

Elmegaard牧場では、2台のトラクターで踏圧がかけられていました。1台は重りを背負い踏圧専門（写真3）、もう1台は先端にグラブを装着し、運搬されてきた材料草を展開しつつ踏圧をかけていました。両トラクターともにダブルタイヤで、ゆっくりとしたスピードでじっくりと踏圧をかけているのが印象的でした。



写真3 ダブルタイヤで重り付きの踏圧専門トラクター

#### ③サイレージスプレッダー

グラブを装着したトラクターの後部には、サイレージスプレッダーという名称の攪拌機が取り付けられていました。これは写真4のような2つの回転体が付いた装置であり、材料草を薄く延ばすというよりは、まるで掘り返すような



動きをしていました(写真5)。

「掘り返すような動きにどのような意味があるのだろうか?」と私は疑問に思っていたのですが、先日、作業の動画を道北の酪農家のYさんに見ていただいたところ、「この装置があれば、材料草の踏圧時にできる重機の轍を無くすことができるので、均等に踏圧をかけられるかもしれない。轍は思った以上に踏圧作業の邪魔になるので、この装置の意義は大きいかもしれない。」とのご意見をいただきました。実際に重機に乗って作業することのない私では思いつかない貴重なご指摘でした。



写真4 サイレージプレッダーの回転体



写真5 サイレージプレッダーによる攪拌作業

#### ④人力による踏圧?

サイロの壁際の踏圧をかけるのが難しいのは万国共通のようです。私も作業のお手伝いをいたしました。

#### ⑤密閉作業

基本的な作業は日本と同じですが、入り口を土砂で封じ、壁際にグラベルバッグを隙間なく

敷き詰め、空気を完全に遮断する作業に抜かりがありませんでした(写真6、7)。また、デンマークでは、どこに行っても切りタイヤを使っているのが印象的でした(写真8)。



写真6 ビニールシートによるシート掛け



写真7 壁際にはグラベルバッグを隙間なく設置



写真8 切りタイヤの設置

今回はオランダで普及しているバンカーサイロを活用した多層サイレージについてご紹介致します。

(飼料研究グループ主任 高橋 強)